

平成27年度 佐久長聖高校 学校関係者評価

評価 A：十分できている B：概ね十分できている C：普通である D：不十分などところがある E：ほとんどできていない

分野	評価項目	評価の観点	評価	成果と課題
学習指導	授業内容の充実	1 授業評価を適宜行い、その内容を検討して、生徒の学ぶ意欲を喚起する授業ができたか。	B	2学期末に一斉に授業アンケートを行ったほか、適宜生徒から要望を出してもらって授業や課題に反映させた。復習ドリルで理解度をそのつど確認し授業に活かした。様々な学力層の生徒が関心を持てるように教材選択を工夫したが、意欲全般を高める努力は常に必要である。放課後等、自主的に学習し合う集団ができてきた。補習も一律一斉ではなく目的別の補習を組む試みをしている。現在の大学入試問題に対応しつつも、講義調の授業を脱し、アクティブラーニング（能動的学習）の手法と情報技術を授業に取り入れることが大きな課題である。
	教科指導力の向上	2 研究授業や教員相互の授業参観を実施し、授業の質的向上に役立てたか。	B	年3回、延べ6教科で研究授業を行い、授業方法・分析の観点・授業づくりのための継続的指導のあり方について確認し、反省・改善に結びつけられた。相互の授業参観については教科による取り組みの差がある。中学高校間でも授業参観の機会を作り、連携を強化してほしい。基礎の定着を可能にするような授業研究も必要である。
		3 模試・検定結果を教科内で分析し、生徒の学力に応じた授業を実施したか。	A	模試ごとに弱点分野を洗い出し、授業で類似問題を演習・解説することで補強に努めた。模試等のデータを分析して学力を把握し、実態に合わせた授業ができた。だが、基礎学力が不足していると学年が上がるにつれて模試の難度との差が大きくなる。1・2年次は模試の前に目標設定をさせたり、事前に課題を与えて知識・解法や時間配分などの確認をさせているが、生徒が自己分析をして必要なことを求めて行動できるようにしてほしい。
	学習習慣の確立	4 学習状況・学習時間の定期的調査と面接指導で、適切なアドバイスをできたか。	A	生活記録で生活の様子や学習時間の把握に努めた。学習時間が安定しない生徒や意欲が不十分な生徒への個々の指導を心掛けている。教科担当者が面接して学習のしかたを指導する場面が増えている。クラブ顧問も部員の学習状況の情報を共有し、部の学習会や個別指導を行うようになってきた。これらを成果に結びつけてほしい。
		5 授業効率を上げるため、生徒の授業に臨む姿勢の育成・指導に努めたか。	B	授業開始前の準備や挨拶など授業に臨む姿勢作りに努めた。机間巡視をして個々の取り組みに助言を与えたりして、授業中に生徒が効率的に活動できるようにしている。基礎学力が十分でない生徒については、中学内容等の学び直しの機会を設けるなど、授業以外の組織的な取り組みが必要である。授業者の指示で学習活動をするだけでなく、問題発見・解決法模索・討論・発表などで生徒が授業を作れる（アクティブラーニングができる）ように教材研究を深めたり、科目の枠を超えた応用問題に取り組みしてほしい。
進路指導	希望進路の実現	6 3年間を見通した計画に基づいて指導が行われたか。各学年と係の連携が十分であったか。（模試・補習・進路講話・大学研究会・勉強合宿等）	B	模試と補習などをリンクさせながら、進路実現に向けての方策を常に考え実行できた。高大接続改革で大学入試も変化していくため校内外で研修する機会を増やした。教科会の定期的な実施により3年間の学習指導の意思統一と情報の共有ができるようになってきている。教科会と学年会との連携で、類、文系理系ごとの統一した視点を徹底し、実効性を高めてほしい。長聖中学・高校の合同教科会の回数が増えたことにより、6年間を見通す意識をさらに強めてほしい。
		7 進路指導に生かせるようなデータ整備・分析ができたか。	A	模試の結果を用いて成績の傾向を把握し弱点分析ができた。学年全体・学級・個人と、多角的に行ってほしい。
		8 勤労と職業観を育てるキャリア教育を実施したか。	B	学年や授業講座の単位で講師を招いての特別講義を実施した。日常のホームルームや授業時に情報や考える機会を提供するよう心がけた。理系生徒には職業・資格に即した話をしやすいが、文系生徒にも具体的な話ができるようにしたい。保護者や卒業生の協力も得て、学年としての計画性あるキャリア教育をしてほしい。
生活指導	自立的生活の確立	9 服装・挨拶等、生徒の自律的取り組みの支援ができたか。	B	フューチャイムによって生徒の時間意識が高まった。カジュアルデーの導入で生徒が自分の服装を考える機会ができ、笑顔も増えた。一斉点検ではなく「制服＝フォーマル」という意識の育成と声掛けで服装を整えさせてほしい。
	生徒相談の充実	10 担任・学年・部活顧問・生徒指導係等が連携を取りながら適切に生徒相談に乗れたか。	B	問題行動となる前に連携して見守ったり面談をして導くことができた。学年内の連携や相互の情報交換は活発になされており、学年を越えた指導態勢が整っている。生徒寮でもこまめに面談をし、学習や生活上の悩みを把握し対処した。見えにくい、インターネット上の問題が起こる時代なので、日頃からモラルと警戒心を持たせることと、生徒間のうわさ程度のものでキャッチして、問題を早期に発見し対応してほしい。
	安心・安全な学習環境の確保	11 校内の清掃美化が進んだか。定期的な巡視・立門指導・交通安全指導ができたか。	B	清掃を生活の一部として自然に取り組める生徒が多い。決まった作業だけでなく、気働きができるようにしたい。校内に危険箇所・修理箇所がないか定期的に点検した。本校舎改築工事に伴い、校門付近の交通安全に留意させた。練習や学習で休日に登校する生徒も多いので、様々な目配りが必要である。
	いじめの早期発見	12 いじめの早期発見と対応に努めたか。	A	学級・校内・寮・クラブなどあらゆる場面で生徒同士の言動にいじめの端緒が表われていないか注意を払っている。察知した場合は面談し、見守りを連携して行う。日常的な対話や生活記録による心情把握に努めてほしい。
開かれた学校	開かれた学校づくり	12 地域や保護者の意見・要望に対して迅速に対応できたか。	A	気になることがあれば保護者と連絡を取っている。長期休業後に提出していただく保護者の要望等にはできるだけ応答し、実行できることは行った。交通マナーなど地域の方からのご意見は生徒に伝え、改善を促した。
		13 ホームページや学年通信を通して、各種情報を生徒や保護者に提供できたか。	B	学校のニュースをこまめにホームページに掲載した。寮の食事メニューも毎週掲載。保護者にはメール連絡網を活用して学校や学年の行事の案内を送り、クラブの連絡や列車運休の情報なども提供している。インターネットを用いた双方向の連絡システムも導入したので、その活用が課題。紙媒体でも学年通信・学級通信を発行している。ホームページで寮生活の様子や同窓生の活躍（スポーツ以外も）など発信できるとよい。
		14 情報を積極的に発信し、地域との連携を深めたか。	B	文化祭で地元商店街のご協力をいただいた。吹奏楽部が地域のイベントに参加、福祉施設での演奏も行った。週1回剣道場を地域に開放している。降雪時には駅前や歩道の雪かきをしている。今後、新校舎に設置する地域開放室を拠点に、情報の発信にも努めてほしい。